桜　風

合志市立西合志中央小学校学校だより
校訓【健康　工夫　協同】
令和５（2023）年１０月６日　第７号
文責：校長　佐藤　正貴

前期終了にあたり・・・。

４月１０日の始業式の時、体育館に行くと、とにかくザワつきが止まらない状況でした。しばらく待って、ようやく話ができる状態になりました。そこで、児童に「話を聞く力を付けること」の大切さを話して本年度をスタートしました。学校で話を聞くというとは、毎時間の授業や学校生活の中で「今、何をすることができるのか、何をするべきなのか」ということを判断する力を付ける第一歩です。各学年部でも、そのことを意識して教育活動を進めていってもらいました。すると、やはり継続は大切だということを実感することにつながりました。教室の様子を見に行くと、高学年の児童が担任の先生の話をしっかり聞いている様子が徐々に増えてきました。また、チャイムの合図と同時に黙想を始める低学年の様子も日常的な姿となってきました。全校集会での無言入場、学年集会の時に友だちの発言をしっかりと聞いている姿など、学校全体に浸透してきていることが分かります。勿論、できない時もまだまだあります。完璧にできている訳でもありません。しかし、児童の態度や振る舞いの中に、話を聞く事が大事なことであるという認識がしっかりと育ってきている事を感じた前期終業式でした。

さて、その終業式では、最初に各学年の代表（今回は１組）の児童が、前期の振り返りと後期に向けての目標を発表してくれました。１年生から順番に発表しました。手に原稿を持って、少し緊張した面持ちでした。「原稿を上手に読むことができればいいな」と思いながら見ていましたら、原稿は持ったまま、顔を上げて全校児童を見渡して話を始めました。はっきりと聞きやすい言葉で話す姿にびっくりしました。２年生、３年生と続き、最後の６年生は、多分原稿用紙にすると２～３枚分だとは思いますが、発表者全員が原稿を読むのではなく、振り返りや目標を話しきることができました。相手を見て話すということは、本当に聞く人に伝わるということ、話を聞く力を付けるためには、話をする側のスキルも重要である事を私の目の前で児童が見せてくれました。私が話するよりも、全校児童が集中して聞いていたことは言うまでもありません。

本当に児童の力には計り知れないものがあることを実感した終業式でした。

通知表

１年生は、初めての通知表でした。ドキドキ、ワクワクだったと思います。通知表の所見には、各担任が児童のこれまでの頑張りとこれからの成長を願いながら、限られた文字数の中で表現してありました。温かい言葉がたくさんありました。

私が教員になったとき、父から私が小学校１年生の時の通知表を見せて貰いました。大事に取っておいて貰ったことに感謝でした。ワクワクしながら見てみました。愕然としました。所見には「授業中、席を離れることが多く、落ち着きが見られません」と書いてありました。これだけでした。段々と記憶がよみがえってきました。この時、父にひどく叱られたことを思い出しました。現在の教育とは、随分違いますよね。

今は、良いことは良い、悪いことは悪い、児童の人格を否定する指導ではなく、起こした事象・言動の根拠を明らかにしながら、是々非々を一緒に考えていくことが大切だと考えています。そして「認め・誉め・励ます」ことで、個々を伸ばすことに努めていきます。

後期も、学校教育へのご理解、ご協力の程よろしくお願いします。